

令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立藍小学校
-----	----------

1 学校教育目標

心豊かにたくましく 進んで学び 共に生きる児童の育成

～大好き自分 大好き友だち 大好き藍～

2 今年度の学校重点目標

- 1 地域の強みを生かし、子どもの心を変える
体験を通じた共生の教育、本物にふれる機会や感動体験、地域と連携した教育（幼小中の連携）
- 2 小規模学習集団の強みを生かし、子どもの学びを変える
個別最適な学び、協働的な学び、ICT機器の効果的活用、基礎基本の定着
- 3 小規模教職員集団の強みを生かし、学校を変える
危機管理・危機対応、組織的な働き方改革教育課程の柔軟な見直し

3 総合的な自己評価

学校教育目標及び経営の基本方針・重点目標・努力目標の具現化に向けて、教職員や関係者と学校評価を共有しながら学校運営をすすめ、地域人材と連携した教育活動の取組を推進することができた。HP 等により、地域人材を生かした教育活動を含め、様々な教育活動の様子を随時発信することができた。また、学年や発達段階に応じ ICT 機器を活用した教育活動を推進できた。今後もよりよい授業実践の共有・交流を学校間だけでなく中学校区ともさらに共有したい。

4 総合的な学校関係者評価

学校教育目標に基づき、学校は児童の健やかな成長を願う保護者や地域の思いを受けとめ適切な指導をしている。学校は、地域の強みや小規模学習集団の強みを生かして、児童一人一人が輝ける学びの場を設定しているため、児童の成長が良く感じられる。保護者との連携を密に行っていることで、保護者の学校に対する評価も上がってきている。今後、ますます家庭地域との連携を進め、豊かな自然と地域の人材を積極的に活用しながら、子どもの成長を学校と地域が共有し、地域とともにある学校づくりをさらに進めていくことが望まれる。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	
組織運営	学校教育目標、学年・学級目標の実現を目指し、組織的かつ適切に教育活動を進める。	校長のリーダーシップのもと、学校教育目標・重点目標を明確にして教育実践に取り組むことができた。	より一層、教育効果を高めるため、少人数の強みを生かした教育課程の枠組みを模索していく。	学校が目指す、子どもの姿が明確にされており、協力体制をとることができた。今後も、積極的な連携を行うことが望まれる。学校だよりや学校ホームページでの積極的な情報発信が評価できる。進んで学び、人とつながる力をつける教育活動に、家庭や地域も学校と連携して積極的に参画したい。
	学校運営協議会を中心に、開かれた学校づくりを推進するとともに、保護者・地域への積極的な情報発信により、相互の信頼関係を構築する。	地域コーディネーターとの円滑な連携により、地域人材を活かした活動ができた。また、HP の QR コードを学校だよりに掲載し HP を紹介する場面を増やし、閲覧機会を増やすことができた。	放課後あいつ子教室やがんばりタイムなど、コミュニティスクールの拠点となる教室の活用ができていく。さらに活用する機会をつくり、開かれた学校づくりを推進していく。	
教育課程 学習指導	学習指導要領の趣旨を踏まえた各教科等の年間指導計画に基づき、学習指導を適切に進める。	教職員一人ひとりのタイムマネジメントへの意識が高まり、目標を持って行動したことにより、超過勤務時間が減った。	算数科を核に、各教科領域等で「育成すべき資質・能力」を明確にして整理する。「育成すべき資質・能力」を柱に教科等横断的な視点で教育課程の編成を図る。	生きて働く確かな学力の定着が必要である。そのためには、対話場を位置付けた学習展開・ICT を活用した授業改善をすすめる。藍中学校区で作成している家庭学習の手引きを活用するとともに、各家庭と連携して家庭学習を各自が確実に実行する習慣作りが重要である。藍の豊かな自然と地域の人材を積極的に活用し、子どもの成長を学校と地域が共有し、地域とともにある学校づくりをさらに進めていくことが望まれる。
	「学びに向かう力」の育成とさらなる学力向上に向けた取組の充実等の授業改善に努める。	人的または物的な体制を地域と連携しながら整備、校区の特色を生かした体験的なカリキュラムマネジメントを充実させることができた。	「育成すべき資質・能力」を児童が意識し、主体的に学びたいと感じられる授業デザインを推進する。また「家庭学習の手引き」を使って、家庭学習を習慣化させ、基礎学力を支えたい。宿題に授業で取り扱う意見づくりを盛り込み、児童の主体的な学びが実現するよう繋げていく。	
道徳教育 人権教育 安全管理	道徳教育を中心に据え、自分と他者そして命を大切に、互いに尊重しあえる仲間づくりを行う。	子どもたちの「ごめん」「ありがとう」、素直な気持ちで傾聴すること、人の良さに目を向けること、身近な「おかしさ」に気づけることを大切にしている。道徳授業やなかま集いを契機として、上記を振り返るようにした。日常の指導においても全職員で情報を共有し、子どもと子どもをつなぐようにした。	授業を通して、児童が道徳的価値を自覚できるよう、引き続き、授業者の指導力向上を目指した取組を行う。また日常生徒指導にあたっては、共感から話を聞く態度を教師も子どもも行うように心がける。	人権教育を柱にした仲間づくりの教育を大切にしており、今後も道徳教育・人権教育を更に充実させてほしい。児童の様子や学校評価アンケートから、児童が明るい気持ちで学校生活を送っていることが伝わってくる。子どもたちの心を育てる教育を今後も地域が協力して取り組む。
	学校長を中心とした危機管理体制のもと、計画的な防災訓練を実施するとともに、子ども達の健全な心身の育成に努める。	4月から引き渡し訓練、不審者対応訓練、火災避難訓練、地震避難訓練を計画的に実施し都度防災マニュアルの内容確認・見直しを図っている。加えて今年度 EARTH 員を講師に教師も子どもも学ぶ機会を設けた。このことにより防災学習がより充実した。学校管理下における重傷事故に対する教職員のヒヤリハットの感度は高まり、学校での重傷事故件数は減少し、ケガや病気に対する迅速な対応及び事故防止への指導の徹底が図れた。	教職員のヒヤリハット感度を継続させるとともに、防災教育を中心に自らの命を守るための安全指導を充実させる。	
特別支援教育	個に応じた教育課程を編成・実行するとともに、学校と家庭の連携のもと、個々の実態把握を適切に行い、学校全体で適切にかかわる。	校内支援委員会を定期的に開催し、支援計画などの見直しを行った。事前打合せを充実させることにより、効果的な交流及び協働学習を進めることができた。	特別な教育的支援を要する児童についての共通理解を徹底するとともに、定期的な研修により、全ての教職員が個に応じた支援ができるように取組む。	個に応じた個別最適な教育活動が行われることが大切である。「誰一人取りこぼさない教育」を目標に家庭と連携し、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを進めていくことが望まれる。
生徒指導	学校生活のきまりを守り、他者との円滑なコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	少人数のため、人間関係の修復に時間がかかる傾向にある。清掃指導や時間を守る指導など、日々丁寧に指導することで、児童の行動が変化し、多くの児童が落ち着いて学校生活が過ごせた。	特別活動などを通して、キャリア教育を充実させ、他者との円滑なコミュニケーションを図らせる。また、必要に応じて、発達段階を踏まえた SST などを年間計画に入れていく。	キャリアノートを児童玄関に掲示し、全校朝会などで評価していることにより、自分や他者の成長を感じ、多様な他者とコミュニケーションをとろうとする姿が見られる。いじめの対応については、「いじめは発生するもの」という前提のもと、引き続き「いじめ対応チーム」を中心に、問題の共有・早期解決に向けて取り組みを強化したい。
	「藍小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止に向けた指導体制の充実及び組織的対応を行う。	「心の模様アンケート」を行い、些細な変化を見逃さず、未然防止や早期発見に努めた。また、気になることは「いじめ対応チーム」で協議し早期解決に努めた。	誰もが同じように素早く組織的に対応できるように、引き続き研修を行い、個々の指導力と学校の組織力をさらに向上させる。今年度同様、事象が発生した際、管理職・担任・生徒指導担当・養護教諭などをメンバーとする「いじめ対応チーム」を立ち上げ、事案について組織的に対応する	

6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
8月	職員アンケート実施・重点取り組み項目確認
12月	学校自己評価、学校評価児童・保護者アンケートの実施
1月	学校自己評価の分析
3月	児童・保護者へのアンケートの結果を保護者配布により報告

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
5月	第1回学校地域運営協議会
8月	藍中校区小中合同研修会
11月	第2回学校地域運営協議会
2月	第3回学校地域運営協議会

8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
3月中旬	保護者へプリント配布により公表	自己評価結果及び分析、改善の方策を記載	
3月下旬	ホームページにて公表	学校評価(自己評価及び学校関係者評価)の結果及び改善の方策を記載	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います